

佳作

夢に向かって

秋田県三種町立琴丘中学校

1年 柴田 紗希

「早く宿題をやりなさいよ。」

夕食後、キッチンから母の声が聞こえてくる。部活後の疲れた体を奮い立たせ、勉強に取り掛かる。勉強が終わった後、私の手はまだ休まらない。シャーペンを持ち直し、

「よしっ。」

と声をあげると、いつものノートに絵を描き始める。次々に頭の中で、キャラクターが生み出されていき、ペンが進んでいく。それまで真っ白だった紙に一つの命が吹き込まれる。その喜びは、自分しか味わえない、すてきなことだと思っている。私にとって絵を描くことは、日々の生活のエネルギーになっている。

私が絵に夢中になったきっかけは、テレビである漫画家さんの密着をしていたことだった。その漫画家さんは、ただひたむきに一生懸命漫画を描いていた。漫画家という仕事はこんなに輝いて見えるものだと、初めて実感した。この出来事こそ、私が漫画家を本気で目指したいと思ったきっかけになった。

中学校に入って、進路や将来のことについて本格的に考える機会が増えた。まだ将来というもの人間関係などさまざまな大変なことや嫌なことがたくさんあるというマイナスなイメージがあり、不安な気持ちも強かった。

ある日、進路希望のことで勇気を出して家族に話してみた。

「漫画家になりたいんだけど、どう思う？」

すると父と母は声をそろえて言った。

「うーん。漫画家として生活できる人は、本当に少ないし、そんなに甘い世界じゃないと思うよ。」

予想通りの答えだった。両親の言いたいことは分かるし、私も同じ考えだった。だから自信を持って将来の夢を周りの人に語ることはできなかった。しかし、私にとって絵を描くことは生活の一部であり、心の糧にもなっているので簡単に諦められないのが、今の正直な気持ちだ。

世の中には漫画をくだらないと思っている人がいると聞いたことがあるけれど、私は違うと思う。漫画に出てくるキャラクターのセリフや表情には、作者が読者に伝えたい重要なメッセージが込められていると考えている。実際に私も心細い時や苦しい時つらい時に、ある漫画のキャラクターのセリフに勇気を

もらい、背中を押されたことがある。なかなか言葉で表せないようなことも漫画やアニメの世界では、絵のタッチなどによって表現できることが魅力的だ。

漫画を描くということは、絵を描くことだけではなく、ストーリーを考えて物語を構成していくことが必要だ。そのために中学校に進学してから勉強はもちろん、新聞で時事や住んでいる地域に関する記事を読み、入部している吹奏楽部では音楽を学び始めた。また、小説を読むことで文章力や想像力を高めるよう意識している。そして時には苦手なことにも積極的に挑戦している。それは人前で発言することや、自分の考えをうまく表現することだ。例え相手に共感してもらえなくても、自分の伝えたい想いやメッセージを分かってもらえると私はうれしい。

夢をかなえるためにこれから取り組んでいきたいことは二つある。一つ目は漫画を描くための基礎を学ぶことだ。中学生の私にはできることが限られているけれど、専門的な本やさまざまなジャンルの漫画やアニメを見て、自分の中にない、新しいことやなるほどと思ったことはたくさん吸収したい。吸収したことは絵を描く時の自分の盾としていけたら良い。二つ目は漫画雑誌の新人漫画大賞など絵に関するコンテストに応募することだ。自分で生み出したオリジナルの作品を他の人に見せて評価をもらうことで、良い点は伸ばし、悪い点は改善しようという気持ちが成長につながっていくと思う。

私が悩んでいる時に母が言った言葉が心に残っている。

「自分の信じた道を突き進みなさい。」「失敗はたくさんしてもいいと思う。ただ、あの時やれば良かったと後悔する人生は送ってほしくないな。」

私はこの言葉に胸が熱くなった。自分を信じていいんだ、失敗はたくさんしていいんだと思った。

新しいことや苦手なことにチャレンジするのは決して簡単ではなく、一筋縄ではいかない。また、想像以上のエネルギーを使うだろう。それでも勇気を出して何かに挑戦したり、いろいろな分野に触れることでたくさんの知識や経験を得ることができる。また、何事も自分なりの目標を立て、努力して目指していくことが大事だと考える。これからも、一度きりしかない人生、エネルギーを世の中の多くの人のため、自分のために使っていきたい。